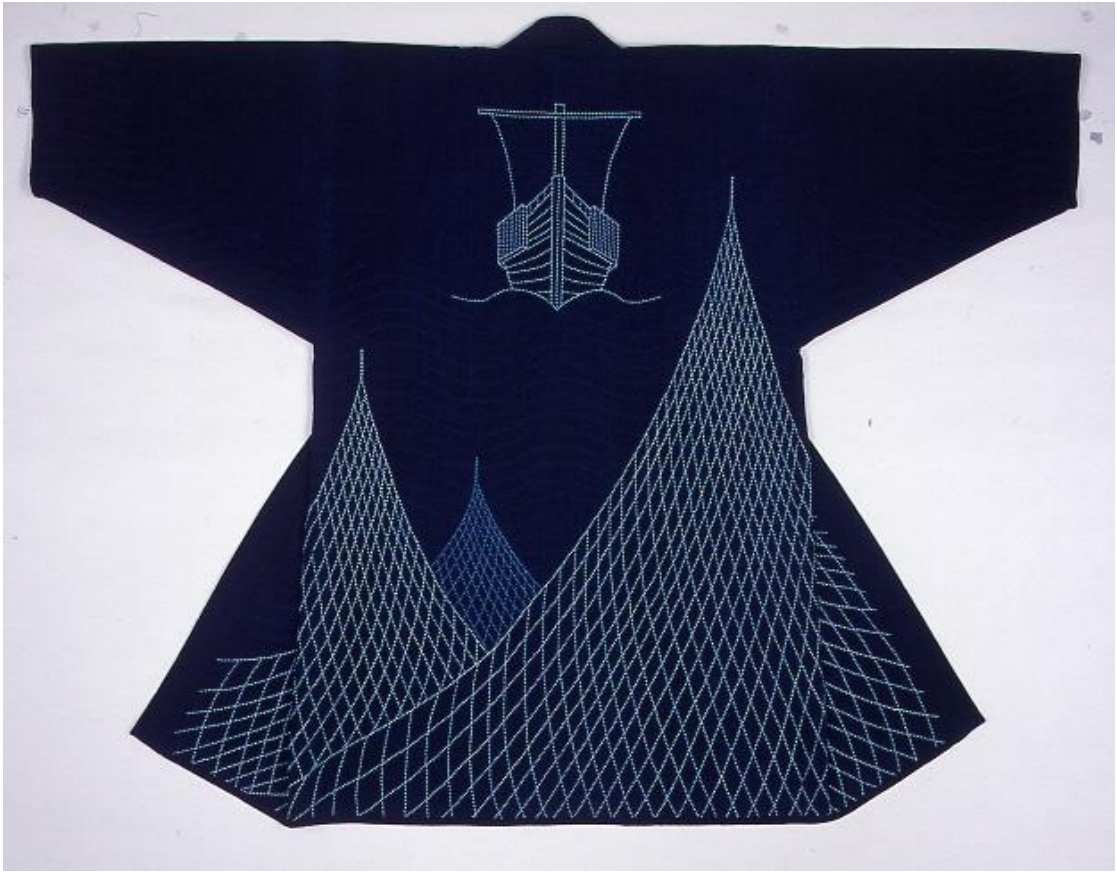


ふくいモダン刺し子



刺し子は、何枚もの布を重ね針と糸で根気よく丁寧に縫い込み、布に強度と保温性を高める技法である。刺し子の技法とともに、麻の葉・七宝・千鳥・紗綾形など日本の伝統文様加わり、伝統文様特有の幾何学模様が鮮やかに刺された布は衣類や生活用品としてその価値を高めていった。江戸時代から明治時代にかけて、200年余り日本海を往来、交易していた「北前船」の中で、仕事着として使用されていた「刺し子さっくり」を中心に、日本古来の伝統文様に新たな独自のデザインを採用した作品を制作し、刺し子の技術を伝承している。

五島万里代

916-0273
丹生郡越前町小曾原110-114

TEL
0778-32-3457

資料館の古い「刺し子さっくり」に魅せられ、刺し子を始める。
1980年に「モダン刺し子・麻の葉会」を設立。
以来、県内外で展示会を行い、刺し子の魅力発信に努めている。